（様式１）

令和３年度　学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立吾嬬立花中学校
校長名	佐藤　順一

１　本校の学力に関する状況

（１）墨田区学習状況調査結果から

成　　果	課　　題
・3 学年は、国語でA・B 層・社会・数学・理科でB 層の人数が増加する結果となり、中位層の学力の伸びが見られた。 ・1 学年は、全教科で全国の平均正答率を超えている。	・3 学年は、昨年度と比較して、D・E 層の人数にほとんど変化がなかった。 ・3 学年はどの教科も A 層が 10 人以下と少ない。1 問から 2 問の間違いでB 層になってしまう教科が多いので、ミスをしないよう注意深く問題に取り組む必要がある。 ・2 学年の全教科、3 学年の国語以外は、全国の平均正答率に至っていない。

（２）意識調査結果から

成　　果	課　　題
・授業満足度の平均８割以上の肯定意見	・家庭学習時間の少なさ。 ・先を見通したキャリア教育の充実

（３）墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成　　果	課　　題
・授業アンケートで、「授業がわかりやすい」・「授業を受けると知識や技能が身に付く」に肯定的な回答を答えている生徒が 90％以上いる。 ・3 学年では校内での実力テストで、理科・数学では、A・B 層の割合が昨年度の約 20％から今年度は約 30％と増加している。 ・2 学年では校内での実力テストで、国語・理科・英語は A・B 層の割合が 30％を超えていて、理科は、D・E 層の割合が 25％である。	・学習に関するアンケートで、家庭で平日に学習しない生徒が 15％、1 時間以下が 54％、休日に学習しない生徒が 23％、１時間以下が 45％と家庭学習の習慣が身についていない・または少ない生徒が過半数である。 ・3 学年では校内での実力テストで、昨年度と比較して、国語・数学・英語でD・E 層の人数が増加しており、どの教科も 30％を超えていて、英語は 50％を超えている。

２　本年度の学力向上に関する主な取組

（１）知識・技能の習得の徹底

DE 層の引き上げのため、「復習」に重点を置いていこうと考えている。授業内で取り組めることで、前時までの既習事項を確認するためのテストを各教科で実施していく。実施の頻度は各教科で設定して、定期的に小テストや単元テスト等の形式で確認する。また１１月より時程を工夫して、放課後教室（吾立学院金曜教室）を全員に実施する。５教科の授業内に行っている小テストのまと

めテストとして全学年で小テストを実施する。また翌週の授業内でテストの解説を行い、既習事項の定着を図っていく。また、学習の習熟度を測るために、年５回の定期テストとは別に校内実力テストを実施する。3 年は年 4 回、１，２年は年 3 回実施し、国や都、区の学力調査の分析とともに学習に定着度や理解度を測り、DE 層の数値的な変化や都の平均正答率との差を確認していく。

授業の内容・過去に学習した内容の繰り返し学習をシステム化しての実施

① 授業→家庭で復習→次時の授業での復習の流れのスパイラルで、繰り返し学習を行い、基礎基本の習得を徹底する。

・授業内で本時の授業において復習すべき内容を具体的に指示する。
（タブレットドリル・ワーク等）
↓
・家庭で指示された内容の復習を行う。
↓
・次時の授業で、復習タイムや小テストを取り入れて、知識・技能の定着を図る。

② 過去に学習したことで習得が不十分な内容を、再度学習し定着させる機会をつくる。

・授業内で、本時の内容に関連する過去の内容の復習を行なってから授業を進める。
↓
・授業内で、自主学習としてさらに復習しておくべき内容を具体的に指示する。
（プリント・タブレットドリル等）
↓
・指示された内容の復習を自主学習として行う。
↓
・理解できない問題は、放課後学習教室を利用して解決し、習得につなげる。

（２）思考力・判断力・表現力の育成

新学習指導要領は各教科において 3 つの資質・能力「生きて働く知識・技能の習得」「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性の涵養」を身につけさせることを狙っている。授業では基本的な知識・技能の習得（「何を理解しているか、身に付けているか」）を徹底し、理解していることをどう使うかなど学びの工夫（「どのように学ませるか」）を行い、学んだ事を実生活に生かそうとする意欲や態度「何ができるようになり、どのように社会と関わっていこうとするか」の育成を目指し授業改善を行っていかなければならない。授業改善のためには管理職のマネジメントが重要と考える。週案の確認から授業観察による指導・助言、そして学力向上面接などを通して、主体的・対話的で深い学びの実践を行うための授業展開や評価方法等についての教員の学びを全力で支えていく。

基礎基本の習得が十分な生徒に対して基礎基本を活用できるような課題を用意し、より深い学びができるように授業を行う。

① 墨田区学力調査や都立入試問題に通じる、思考力・判断力・表現力を必要とする問題を授業内で扱う。　→基礎基本を活用する問題にも対応できるようにする。

② 学習した内容が、社会や生活の中で生かされていることを実感できるような課題を扱う。
→学習していることと、社会で起きている事象がつながっていることを実感することで、

より能動的で深い学びに向かう姿勢を育成する。

（３）放課後学習やロイロノートを活用した家庭学習等、自主学習習慣の定着

授業以外での学力向上を図る方針として、放課後教室（吾立学院放課後教室）の充実を図っていく。具体的には検定試験の指導を中心とする。この秋より、英検と数検前の学習を週１～２回程度、計画的に実施することになっている。教師は教育課程の進捗や生徒の学習到達度等の状況の情報提供を行い、実際の指導はSSTが担当する。受験者が増え、検定試験合格に向けた意欲的な取組が見られるようになった。受験者・合格者を増やしていきたい。また、家庭学習の重要性を高めていく。現在、ほとんどの生徒が家庭学習に取り組めていていない。毎時間、授業では課題を出し、次の授業では学習内容の確認小テストのサイクルがあること、金曜日にはまとめテストがあること、そしてこれらのまとめテストが定期テストに直結することなどを学校だよりや保護者会等で周知し、家庭からも声をかけてもらうようにしていく。このように自主学習や家庭学習への取り組みを充実させ、学習への意欲を高めるともに、学習のふりかえりの機会を設けながら基礎的な知識・技能の定着を図る。

ロイロノートを活用した家庭学習

家庭学習習慣の定着を目指し、自主学習習慣を身に着けさせる。

①授業で学んだ内容の復習を行い、復習した内容をロイロノートを利用して提出させることで、毎日の自主学習習慣を身につける。

②家庭での自主学習が難しい生徒については、放課後に自習教室を開き、当日の授業の復習を行って、ロイロノートで提出してから下校させるよう支援し、自主学習ができるような環境を用意する。

３　「令和４年度　墨田区学習状況調査」における目標

（１）目標

（長期的）・区学力調査において全学年、全教科全国の平均正答率を超える。

・学力低位層DE層を40%以下にする。（学年・教科により30%以下）

（短期的）・現１学年は教科全体の平均正答率で全国平均＋2ポイント、現２学年は社会・数学で全国平均－5ポイント以内、理科・英語で全国平均－2ポイント以内、国語で全国平均を目指す。

・全学年、全教科、基礎部分の正答率で全国平均－2ポイント以内を目指す。

・全学年、全教科、中央値≧平均値になるようC・D・E層の底上げを図り、A・B層とD・E層の割合を同程度にする。

（２）目標に向けた取組

・平均家庭学習時間2時間を目指す。

・到達度テスト　全教科・全学年　都平均正答率を超える

・授業内における「ふり返りシステム［左記２（１）の取組］」１００％実施

・授業内における「思考、判断、表現する」場面１００％実施